

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月2日実施)	総合評価(3月9日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程・学習指導	<p>・自立と社会参加を目指し、児童・生徒の実態を的確に把握し、入院中の学習保障をすると共に、柔軟かつ多様な充実した教育活動を実践する。</p> <p>・ICT機器等の有効活用による環境整備を推進し、多様な授業の実践・研究を推進する。</p>	<p>①ICT機器等の有効活用による環境整備を推進する。</p> <p>②全ての教員がICT機器を活用した授業を実践する。</p>	<p>①文科省「入院児童生徒等への教育保障体制整備事業」により、ICT機器等およびシステムを導入し、教室、病棟、ベッドサイドをつなぐことによる児童生徒の多様な学びの場を整備する。</p> <p>②同事業により整備されるICT機器等を活用した授業を実施し事例を積み上げ、教育内容の充実と学習保障を図り、児童生徒の復学支援体制の充実につなげる。</p>	<p>①整備事業を受けて、ICT機器等およびシステムを円滑に導入し、児童生徒の多様な教育環境の整備を推進することができた。</p> <p>②全ての教員がICT機器を利活用した授業を実践し、教育内容の充実と学習保障を図り、児童生徒の復学支援体制の充実につなげることができたか。</p>	<p>①達成した 調べ学習や視覚教材として、タブレットやスレートPCを活用し、調べ学習や視聴覚教材として日常的に活用した。中学部では全教科の授業でICTを活用した授業を行っている。事業により機器が導入され「つなぐ授業」がスタートした。重心でもPCでの実践に加え、iPadを活用した実践もみられるようになった。</p> <p>②概ね達成した 校内研究を通して、ICT活用について考察を深めた。また、通信環境が整い始めたことで、病棟学習室や教室と繋げて学習するようになった。ICT活用の研修会を行った。</p>	<p>①活用法の共有について、更に学部教員間で進めていく。可能な範囲でICTを用いた実践例や工夫などを共有し実践・活用を重ねていく。重心部門にとってのICTをAT(支援技術)と広くとらえて、可能なところで実践していく。</p> <p>②試行を繰り返しながら、ノウハウを蓄積し、より効果的な活用方法について研修していく。今年度導入されたWeb会議システムについては、機器操作や実践の積み重ねが必要。施設内と外部をつなぐICTの環境設定を整備する。</p>	<p><学校評議員> ①積極的にICTを導入し、授業を工夫し、学級と病棟をつなぐなど効果的な教育を実践し、短期間で十分な成果を出している。</p> <p>②教員がICT機器の研修をしてすぐに生徒の学習に生かされている。タブレット等も活用し、手術前のこどもの心理を和らげた事例は評価できる。</p> <p>授業の工夫ができています</p> <p><病院関係者アンケート> できている84%</p> <p><保護者アンケート> そう思う98%</p>	<p>①成果：事業によりICT機器等およびシステムを導入し、つなぐ授業による児童生徒の多様な学びの場を整備することができた。</p> <p>課題：Web会議システムを利用するに当たり、接続状況に不安定さがある。生徒の自宅や地元校と結ぶ取組がこれからの課題である。</p> <p>②成果：ICT機器等を活用した授業を実施し、事例を積み上げ、教育内容の充実と学習保障を図ることができた。</p> <p>課題：全員が取組むには至っていない。</p>	<p>①次年度も事業継続を希望し、予算的な裏づけを得て、必要な機材の追加整備や、システムの継続を図る。</p> <p>Web会議システムを円滑に利用できるよう、技術的な研究も推進し、安定した接続環境を整備する。</p> <p>復学支援のための基礎的環境を整備し、結ぶネットワークの拡大を図る。</p> <p>②ICT機器を活用した実践をさらに積み上げ、その教育的効果を検証し、発信する。</p> <p>全ての教員がICT機器の活用を行えるよう研修を促進し、ICT活用環境を整備する。</p>
2 児童・生徒指導・支援	<p>・児童・生徒一人ひとりの個性や医療状況を尊重し、ニーズに応じた支援・指導を組織的に行う。</p>	<p>①組織的に支援・指導し、情報を共有するシステムを構築する。</p> <p>②教育相談報告様式や相談実践体制を整理する。</p>	<p>①個別教育計画の様式見直しも含め、活用しやすい支援ツールの改善を図る。指導検討会、こころカンファレンス、肢体・重心連絡会等で情報を交換し指導方法・指導内容を確認し、チームとして指導に当たる。</p> <p>②教育相談報告様式や相談実践体制の見直し改善を図り、本校の実情に適したシステムの構築を図る。</p>	<p>①組織的に支援・指導し、情報を共有するシステムを構築し、指導内容や指導方法、配慮事項等の情報を共有しチームとして支援・指導することができたか。</p> <p>②本校の実情に適した教育相談報告様式や相談実践体制を整理し、活用することができたか。</p>	<p>①達成した 指導検討会やカンファレンスを通し指導内容や指導方法、配慮事項等の情報を共有し支援・指導している。日々の授業の振り返り、学期末の評価、授業打合せ等の際、個々の児童生徒のねらいを意識した話し合いが行えた。</p> <p>②概ね達成した 保護者の要望や必要に応じ、コーディネーターを交えて指導方針の検討やカンファレンスを効果的に行った。必要な情報を個人ファイルに綴り込み回覧等により活用し管理している。転学相談記録をとり、転入前に担任団で情報を共有することができた。</p>	<p>①今後も情報の共有に加え、指導の方向性や方法についての意見交換を意識して行っていく。個人ファイルにより、支援シート・個別的教育計画を作成したため迅速に計画を立て指導に当たることができた。個別的教育計画をより日常的なツールとするために、児童生徒のアセスメントや記述内容の具体化について考えていく必要がある。</p> <p>②今後も転入や復学に向けて不安を軽減するよう、適切な支援体制を整える。</p>	<p><学校評議員> ①学校内だけでなく、病棟との連携も図り画像を有効活用し、個々のこどもの状況に合わせた対応をすることができている。</p> <p>②様式、体制の見直し、改善について実情に合わせて取り組んでいる。</p> <p>医療との連携が取れている</p> <p><病院関係者アンケート> できている83%</p> <p><保護者アンケート> そう思う98%</p>	<p>①成果：組織的に支援・指導し、情報を共有するシステムを構築し、指導内容や指導方法、配慮事項等の情報を共有しチームとして支援・指導することができた。</p> <p>②成果：本校の実情に適した教育相談報告様式や相談実践体制を整理し、活用することができた。</p> <p>課題：個別的教育計画が児童・生徒一人ひとりの個性や医療状況を尊重し、ニーズに応じた授業や支援・指導に結びついているか検討が必要である。</p>	<p>①引き続き、個別的教育計画をより日常的なツールとするための様式見直しも含め、活用しやすい支援ツールの改善を図る。</p> <p>医療関係者との連携をさらに推進し、組織として情報を共有し、活用できるしくみを整理する。</p> <p>教育相談に係る教育相談コーディネーターや教務主任、学部長・部門長の役割を明確にしながら、組織として相談に当たるしくみを整理する。</p>
3 進路指導・支援	<p>・一人ひとりの将来の生活の充実を目指し、医療状況や復学時期への見通しに応じた進路指導・復学支援等を行う。</p>	<p>①復学支援・進路指導を組織的に行う。</p>	<p>①復学支援が必要なケースに応じて、コーディネーターと協働し、関係者による支援会議や地元校への試験登校を通じて実効的な支援を行う。進路指導では、進路担当を中心に進路指導の年間予定に沿って指導するとともに志望校、教育委員会等と連携し、受検方法、申請の手続きや、必要な移行支援を確実に進める。</p>	<p>①関係者と連携を図りながら、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた復学支援・進路指導を組織的に円滑に行うことができたか。</p>	<p>①概ね達成した 本人や保護者に不安や疑問があった場合は、教育企画GLや学部長から情報を得て必要に応じてコーディネーターがサポートした。地元校で復学支援会議を行う際は、医療関係者と連携し、地元校に情報を提供した。地元校で行ったすべての支援会議に担任が同行した。病院内で行った復学支援会議には、主治医や病棟看護師に参加してもらった。</p>	<p>①必要に応じて諸機関と連携して個に応じた適切な移行支援が行えたが、事務処理期限ぎりぎりに対応せざるを得ないケースがあったので、更に正確で十分な情報を処理する必要がある。家庭状況から、志願相談設定が難しいケースも考えられるため、引き続き施設との連携を密に行っていく。</p>	<p><学校評議員> ①転入転出時の書類等一般の学校と比べるとかなりの数になる。復学支援進路指導も各諸機関と連携を取り丁寧に取り組んでいる。</p> <p>安心して復学できる支援や相談ができています</p> <p><病院関係者アンケート> できている70%</p> <p><保護者アンケート> そう思う93%</p>	<p>①成果：関係者と連携を図りながら、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた復学支援を組織的に円滑に行うことができた。</p> <p>院内受検をはじめとして、生徒が安心して進路を決定していくための支援体制を整備することができた。</p> <p>課題：転出入の多さに加え、短期の在籍や突然の転出入にも臨機応変に対応する必要がある。</p>	<p>①復学支援・進路指導にあたっては、連携が必要な関係者や関係機関は多岐にわたる。情報の共有や共通理解がスムーズに行えるよう、一層の連携の充実が求められる。その連携を組織的に行っていくために、会議設定や参加者の見直しを図り、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた支援が行えるよう調整を図る。</p> <p>転出入の情報を確実に共有し、円滑に対応できるよう事前の準備を進めておく。</p>

視 点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の 目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月2日実施)	総合評価(3月9日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働 ・地域の小中学校へのコンサルテーションを実施し、さらに地域の特別支援学校へ支援をつなぐ。 ・病弱教育に関する理解や啓発を進めるため、地域の小中学校や特別支援学校へ発信する。	①相談内容の情報共有や組織的な対応の基本的な流れと体制を構築する。 ②研修会やセミナー等を開催し、病弱教育に関する理解を進める。	①地域の小中学校へのコンサルテーションを実践しながら、相談内容の情報共有化を図るための仕組みを作り、組織として対応していくためのシステムを構築する。 ②公開講座「こども理解のための研修会」を年間2回実施し、県内の特別支援学校や児童生徒の前籍校へ案内を送り、病弱教育に関する理解を進める。文科省事業の推進や校内研究の成果を集録した「研究のまとめ」を作成し、ホームページや「南の風」通信などで本校の実践を他校へ発信する。	①相談内容の情報共有や組織的な対応の基本的な流れと体制を構築することができたか。 ②公開講座を開催し、病弱教育に関する理解を進めることができたか。さまざまな機会や方法により本校の実践を他校へ発信できたか。	①概ね達成した 教育相談での児童生徒の情報は、担任、学部L、教育企画GL、支援連携GLにできるだけ早く情報を伝え、共有している。本校の情報は、会議等では積極的に伝えるようにしている。学部会ではコーディネーターも出席をして情報を共有している。 ②達成した 公開講座「こども理解のための研修会」で医師による講演を実施し外部4名が参加、OT、PTによる講演を実施し、外部6名が参加した。大学教授による公開講座「病弱教育におけるICTの活用」を実施し外部3名が参加した。どの講座でも参加者の評価は高く、病弱教育に関する理解を深めることができた。本校のHPを親しみやすいように改善した。	①次年度も教育相談コーディネーターと学部部門、校務Gとの協働を継続する。 ②年度当初に計画していなかった公開講座を、ニーズに応じて計画立案した。今後も柔軟に対応したい。「こども理解のための研修会」は毎年2回ずつ行ってきたが、今年度から公開講座が1つ増えたこともあり、その年度のテーマとなる病棟によっては1回にするなど、柔軟な対応が必要である。	<学校評議員> ①こどもたちの個別性に寄り添いながらの相談内容も多くなっており、小中学校との連携、コンサルテーションも進められていると評価できる。 ②公開講座も外部講師に来ていただいてしっかりとした取組がなされている。「南の風」は病院にも配付されており、学校がどのような取組をしているか理解することにつながっていることが分かったが、病院にも定期的に情報提供していただけると必要な情報の共有がよりできるのではないかと期待や心配を保護者とともに話し合い、相談することができたか <保護者アンケート> そう思う98%	①成果：相談内容の情報共有や組織的な対応の基本的な流れと体制を構築することができた。 課題：教育相談に当たる人材の育成が急務である。 ②成果：公開講座を開催し、病弱教育に関する理解を進めることができた。ホームページのリニューアルなどさまざまな機会や方法により本校の実践を外部へ発信できた。 課題：情報発信についてはその手段と内容を常に見直し、改善していく必要がある。	①病弱特別支援学校としてのセンター的機能としても教育相談機能の一層の充実を図る必要がある。教育相談コーディネーターの育成を図り、組織として継続的に支援できる体制を整える。 ②「南の風」は注目度も高い。親しみやすく分かりやすい紙面づくりをめざして、刷新を図る。 ホームページについても随時最新の情報を掲載し、必要に応じたりニューアルを図る。 公開講座の告知方法についても検討し、多くの方々に参加していただける研修の機会を提供する。
5	学校管理・学校運営 ・教職員の人格的資質、専門性の向上を図る。 ・限られた利用可能施設や、制約が多い環境の整備と最大限の活用を図る。 ・事故、不祥事防止を徹底する。	①ICT機器を全ての教職員が活用できるよう研修やサポートのシステムを構築する。 ②各種マニュアルの確認や内容の周知徹底を進める。	①校内研究や研修会等を通し、ICT機器を用いた実践例や工夫などを報告しあい、指導内容、指導方法を共有し深め合う。 ②安心で安全な学校を作るために各種マニュアルの周知、確認を推進し、必要に応じて整備、見直しを図り、事故、不祥事防止を徹底する。特に転出入手続き等に関連職員と連携し、正確・迅速に行うシステムを構築する。	①ICT機器に関する研修やサポートのシステムを整備し、ICT機器を全ての教職員が活用できるようになったか。 ②各種マニュアルの確認や内容の周知徹底を進めることができたか。必要に応じた改善を図ることができたか。	①ICT関連の機器操作、保守、管理についての研修及び周知を引き続き行う。可能な範囲でICTを用いた実践例や工夫などを共有し実践・活用を重ねたが、今年度導入されたWeb会議システムについては、引き続き機器操作の研修や授業実践の積み重ねが必要。 ③共同して業務を行えたが、前籍校の不備によるヒヤリハットがあった。このような場合があるため、さらに確認を徹底する。校外用のチェックリストは今後も改良する。校内の転籍書類を見える化し、さらに分かり易い管理を行うと共に、個人情報適切な管理を継続する。学校防災マニュアルの更新、防災訓練実施手順の見直し。外部講師によるDIG研修会の開催。私費会計マニュアルの更新等を引き続き行って行く。	<学校評議員> ①ICT機器を有効に活用するために、研修やサポートシステムの充実等よく取り組んでいる。管理部門や病院との連携もしっかりなされている。院内LANを含めセキュリティについても適切に対応している。 ②組織的な学校運営がなされ安全で安心できる学校づくりに職員が一丸となって取り組んでいる。 病弱教育に携わる職員として、納得のいく研修ができたか。また研修等を通して病弱教育に関する自己の専門性を向上させることができたか <本校教職員アンケート> とてもそう思う39.5% そう思う48.8% あまり思わない11.6% 児童・生徒が安心・安全に学校生活を送れるよう、教育公務員としての自覚を持って、事故防止・不祥事ゼロを推進することができたか <本校教職員アンケート> とてもそう思う77.3% そう思う22.7% あまり思わない0%	①今年度は可能な範囲でICTを用いた実践例や工夫などを共有し、実践・活用を重ねたが、Web会議システムについては、引き続き機器操作の研修や授業実践の積み重ねが必要である。 ICT関連の機器操作、保守、管理、またウイルス対策についての研修及び周知を引き続き行う。 ②各種マニュアルについては使いながら常に見直しを図り、必要に応じて改善を重ねていく。 転出入に係る書類については、緊張感を持って複数のチェックを重ね、組織として事故を未然に防ぐ取組を継続する。 教育公務員としての自覚を常に持って行動するようお互いに呼びかけ、事故、不祥事防止を組織として徹底する。 事故・不祥事防止のための研修も開催方法や内容を工夫し、職員一人ひとりの内面に働きかける取組を行う。		